

二 詠存大田原書状〔大関家文書〕

詠存（大田原資清）、白幡城の子大関高増に、高増が烏山城へ登城したことをたたえ、自らも登城する旨報じる。

（包紙ウハ書）

〔安碩齋江大田原備前守様方之御書〕  
（大関高増）

猶々めてたさかすく申納候、

如仰たんこのめて度いつにもすくれ申候、御たるまき・御さかなにて、めて度存候、これよりもわさと進候、烏山へ御参、目出度存候、なにさま参候てめてたさ重々可申候、上さまへもこのよし申上度候、万吉重々可申述候、恐々謹言、

端午

（大田原資清）  
詠存（花押）

（奥ウハ書）

〔切封墨引〕

白幡へ御返事 備せん 一

【補注】

本文書、天文十五年頃を中心とした、天文年中半ばから永祿三年以前のものか。